

冬の天の川

冬は四季の中でも明るい星が多く、星空がにぎやかな季節です。6つの明るい一等星をつないでできる大きな六角形「冬のダイヤモンド」は、晴れていれば大阪のような都会の空でも簡単に分かりますし、街明かりのないところに行くと、その辺りに白くぼんやりとした天の川も見ることができます。天の川といえば、夏のイメージが強いですが、実



は冬にも楽しむことができるのです。ただ夏と比べると、冬の天の川は淡く繊細に輝きます。なぜ季節によって、こんなにも天の川の見え方が違っているのでしょうか？

また、天の川の近くには、日本では“すばる”の名で知られる星の集まり、プレアデス星団も輝いています。星団は双眼鏡があれば、その他にもいくつか楽しむことができますし、望遠鏡では星雲といった天体も見られます。こうした星雲や星団は、天の川に沿って分布しているものが多いのです。冬の星空に見られる明るい一等星や星雲・星団とともに、冬の天の川について、ご紹介します。

企画・制作：西野 藍子(学芸員)

HAYABUSA2 ~REBORN

小惑星探査機「はやぶさ2」は、2018年6月に、目的地である小惑星「リュウグウ」に到着しました。はやぶさ2が目にしたリュウグウの姿は、岩だらけの天体でした。

はやぶさ2の目的は、リュウグウに着陸して、その岩石を地球に持ち帰ることです。リュウグウの岩石には、水や有機物が含まれていると考えられています。現在の地球に海があったり、生命体が存在するのは、地球の材料の中に、水や炭素を含んだ天体があったからだと考えられます。リュウグウは、そのような地球に水や炭素をもたらした天体に近い性質を持っているかもしれません。

しかし、はやぶさ2が安全にリュウグウに着陸するためには、大きな岩の無い平坦な場所が必要です。ところが、リュウグウはどこもかしこも岩だらけで、平らな場所は狭い場所ばかりです。

また、小惑星の表面の岩石は、太陽の影響で岩石自体が変質している可能性が

ビリッとびっくり静電気

今年もあの季節がやってきました！ドアノブをさわるたびに、パチッと飛ぶ火花でびっくりさせられる、静電気の季節が…！

静電気は、もの同士がこすれたり何度もくっつきはなれをくりかえしたりすることで生まれます。日本の冬は寒く、空気や肌が乾燥するので、静電気がより人の体にたまりやすくなるようです。



静電気のことをよく知れば、痛いイヤな思いをしないコツもわかるし、静電気で楽しくあそぶこともできます。おうちでもできるいろいろな実験のほか、強力な静電気を起こす「バンデグラフ起電機」という装置を使った派手な実験を楽しみましょう！

「静電気はびっくりするし、痛いからキライ」という方もご安心ください。観客席のみなさんには、痛い思いはさせません。でも逆に「静電気なんてへっちゃら」という勇敢な方には、強烈な静電気を体験していただける…かも！?

企画・制作：上羽 貴大(学芸員)、大倉 宏(学芸員)

あります。そこで、はやぶさ2は、リュウグウの表面に人工クレーターを作り、表面の岩石の下に隠れている、変質の少ない岩石を取ろうとする野心的な任務も計画されていました。

そして、人工クレーター付近への再度の着陸。

地球から遠く離れた小惑星で、非常に精密なコントロールを求められる探査活動を成し遂げたはやぶさ2の活躍を、まるでその場にいるかのようにリアルなCGで再現します。



飯山 青海(学芸員)